



Title	Annual report 2023
Citation	1-26
Issue Date	2024-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/91508
Type	report
File Information	DEI_annual_report_2023.pdf



[Instructions for use](#)

ANNUAL REPORT 2023



HOKKAIDO UNIVERSITY
OFFICE OF DIVERSITY,
EQUITY,
AND INCLUSION

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ
(女性リーダー育成型)



CONTENTS

1 文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (女性リーダー育成型) の取組 02

上位職登用	04
研究力向上とリーダー育成	06
意識啓発	10
環境整備	11

2 各部門の取組

環境整備推進部門	14
女性研究者育成支援部門	15
教育推進部門	17

実施事業一覧	26
--------	-------	----

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ
(女性リーダー育成型) の取組



文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性 リーダー育成型）について

概要

北海道大学は令和5年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」の採択を受けました。

本事業では、学術を起点として世界の課題解決に貢献するためのDEIを実現するため、「Accelerate Ambitions of All」(Triple A)をテーマに、すべての女性研究者がAmbitionを存分に発揮できる環境を整えるとともに、上位職・管理職における女性比率増加の加速を目指し、令和10年度までの6年間、事業を実施していきます。

行動計画・目標

行動計画

I DEI推進の基盤としての抜本的な組織改革 および意識改革

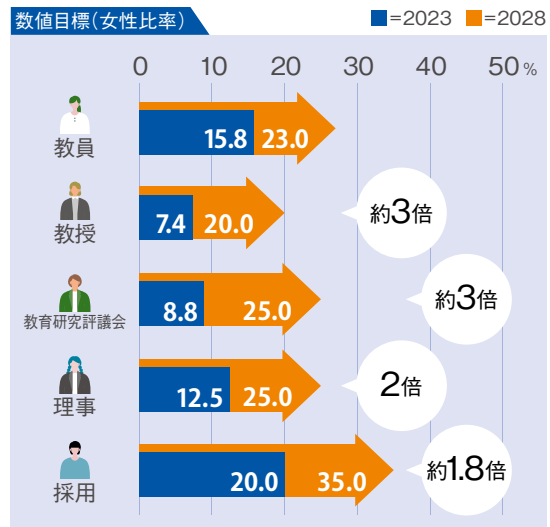
- 1 DEI推進体制の強化
- 2 全学的なDEI意識の改革と醸成
- 3 DEI環境の整備とケア支援の拡充

II 各人のambitionに寄り添った女性研究者 リーダーの育成

- 1 上位職(管理職)の育成・支援
- 2 研究力強化およびリーダー育成・支援
- 3 若手研究者(博士学生含む)のキャリア形成支援

III 女性研究者の採用および上位職への積極 的な登用

- 1 女性教授増加を促進する「加速アクションプラン」の実施
- 2 女性教員採用を促進するための総合的な人事計画の策定



DEI ウェブサイトリニューアル（「女性リーダー育成型」特設サイト新設）とニュースレター発行

DEI 推進本部では、ウェブサイトをリニューアルし、「女性リーダー育成型」特設サイトを新設しました。事業の概要をはじめ、各種支援策等の関連トピックスを掲載しています。

また、ニュースレター Vol.6 では「女性リーダー育成型」を特集しました。



女性リーダー育成型特設サイト

https://www.dei.hokudai.ac.jp/josei_shien/

DEI 推進本部ウェブサイト
<https://www.dei.hokudai.ac.jp>



DEI Diversity Inclusion NEWSLETTER

06 「女性リーダー育成型」特集 2024 January

山口 淳一
北海道大学
理事・副学長
ダイバーシティ
イニシアティブ
推進本部 本部長

女性教員比率と目標値

一北大の女性研究者の比率はどのような状況ですか

【現状】 博士課程学生の女性比率は30.5% (2022.5.1現在) ですが、教授の女性比率は7.4% (2023.5.1現在) です。職階ごとに詳しく見ると、キャリアが上がるにつれ比率は低くなっており、特に講師・准教授から教授になるとさらに低くなる傾向があります。このように研究者キャリアがなくなると女性研究者の「実働パイプ」と言いますが、他大学と比較してもこの減少幅が大きいのが現状です。

一「実働パイプ」割合を高くはしてほしいというように

【目標値】 女性教員の全体の数をさらに上げるというのはなかなか難しいので、まず力を入れていくべきとして、組織運営の中で意思決定の中心を担う上層職、いわゆる管理職の女性数を増やしていくことを考えています。

一管理職である女性教職を増やすのですか

【現状】 現在本学女性教員の比率は約74%と高く、25名増えることで10%まで上げることができ、これを一つの目標値として位置づけました。私も会議などで、自分以外は全員男性という状況がよくありましたが、このような環境は好まないと思います。これまで違和感を感じていませんでしたが、改めて74%という数字を見ると、この偏りによって意見の多様性など様々な面で機会損失があったのではないかと感じます。この数字を受け止めると女性研究者が受けたくなく、教職員や学生にとっても不利になると感じています。

一どのように女性教職や女性教員を増やす取り組みを進めていくとお考えですか

【現状】 分野の現状を把握した上で長期的な取り組みを必要とありますが、今回は各部署で組織として女性教職や女性教員を増やしていく取り組みについて考えていただいています。大学は単に支援するだけではなく各部署と信頼関係を築きながら研究環境の改善に取り組もうと考えています。

一女性教職が増えることどのような効果も期待できますでしょうか

【現状】 研究型にロールモデルとなる女性教員がいることにより、学生やキャリアの初期からいっしょに博士課程に進学する修士課程の学生も増えていくような効果が期待できることを期待しています。また、身近にロールモデルとなる女性教員が存在しているだけでなく、その人が毎日活き活きと過ごしているという姿を見られることも重要だと思います。

北海道大学(以下、北大)のダイバーシティ推進を中心として牽引してきたダイバーシティイニシアティブ推進本部 (Office of Diversity, Equity and Inclusion) 以下、DEI 推進本部(本部長の山口淳一理事と本部長の矢野理香副部長、本部長にダイバーシティ研究推進実践イニシアティブ(女性リーダー育成型)の申請に関するまでの経緯や、今回の採択にあたっての意気込みを伺いました。

一北大は、DEI 推進本部を中心に教職員の差別や偏見を乗り越え新たなハイアスリーキャンパスの実現に向けて取り組んでおられます。これまでの活動で気づいた課題を教えてください

【現状】 北大では、ダイバーシティ、特に女性研究者の育成・支援は2006年に男女共同参画推進の一環として、女性研究者支援室を開設し活動を開始しました。これまで環境整備を中心に取り組んできましたが、また先方ではありません。また、女性研究者比率を高く、3年中期計画で掲げた、目標を達成できていませんでした。この2つの大きな課題に取り組むべく、環境整備と女性研究者比率を上げることを中心に進めていこうと考えています。

本学 DEI 推進の主な経緯

年	主な経緯
2006	女性研究者支援室の開設
2009	ダイバーシティ推進本部の設置
2010	ダイバーシティ推進本部の設置
2011	ダイバーシティ推進本部の設置
2012	ダイバーシティ推進本部の設置
2013	ダイバーシティ推進本部の設置
2014	ダイバーシティ推進本部の設置
2015	ダイバーシティ推進本部の設置
2016	ダイバーシティ推進本部の設置
2017	ダイバーシティ推進本部の設置
2018	ダイバーシティ推進本部の設置
2019	ダイバーシティ推進本部の設置
2020	ダイバーシティ推進本部の設置
2021	ダイバーシティ推進本部の設置
2022	ダイバーシティ推進本部の設置
2023	ダイバーシティ推進本部の設置
2024	ダイバーシティ推進本部の設置

先野 理香
北海道大学
副学長
ダイバーシティ
イニシアティブ
推進本部 本部長

一活き活きと過ごさせていることが重要なのですね。そのための取り組みで考えていることはありますか

【現状】 学部によって女性教員がいても少ないところもある中で、後のつなぎを付けていかなければなりません。例えば後援者や学生など子育てに関する情報や、上位職ならではの悩みやノウハウなどを共有できる場があるとよいと思いますし、このようなネットワークを作ること、さらに研究面でも異分野合作のアイデアにつながるかもしれません。私はこの時代時代はやはり子どもは社会で育てるものだと考えています。母親や父親だけでなく、みんなをどうやってどうや、育てている人を支えられるかというのを考えられる環境を醸成したいと思っています。

一では、産後までの育児はどのようなものを考えていますか

【現状】 例えば、創成科学研究センターにベビールームが設置されています。少し子どもを遊ばせられるようなマップがあったり、おむつ替えができたり、授乳ブースもある設備です。こうした実際の支援の事例を他の部署にも伝えて、どのような設備が必要かを一緒に考えていけるのもDEI推進本部の役割だと思っています。

一今後の目標は研究力の増進にどのように関わっていくでしょうか

【現状】 女性研究者も含めて研究がすすめるということと「研究も教育もしたい」という思いです。それを支えるためのサポートが私たちの役目と、研究・教育環境を整備することで、教員が思う存分研究も教育もできるようにすることを願っています。そしてそれが成果につながり、その成果は社会に還元していくものと思っています。

一私は研究者の学生に「とにかく大学に楽しく来られるは、それが一番」と話ししてきました。それと大学だけでなく、職員や教員にも当てはまりませんか。大学という場、いろいろな人の交流の中から出てくる発想や楽しみを抽出し、そこから自分のパフォーマンス、つまり研究にもつながっていく。そのような環境で研究力が上がっていくには、大学全体も活性化していくと思っています。今回の女性リーダー育成型はその良い循環を生み出すための起爆剤と位置づけています。

【期待】 これから上位職に就き、組織の意思決定に参画して女性教員が増えていると思いますが、ステージが変わることによって不安を感じる方もおられるかもしれません。実際に参画することはあるかもしれませんが、チャレンジしたときには、今までと見え方が全然違ってきます。そしてそれが自分の考えや価値観が、教育や研究面でもステップアップできる良い機会になります。ぜひチャレンジしていただきたいです。物理的に時間足りないと問題はあるかもしれませんが、そのための増加でもありそうです。

【期待】 大学運営に関わっていると、立場が変えるということを実感します。どう変わるかは自分も周りもやってみるまでわかりませんが、いろいろな人が性別によらず、自分の仕事を楽しくやる。大学の運営なども一緒にやっていけるような環境をつくること、大事だと思っています。チャンスがきた時にみなさんが手を挙げられるような環境を整備していきますので、その時はぜひ手を挙げていただきたいと思っています。

上位職登用

女性教授増加を促進する「加速アクションプラン」

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」では、行動計画Ⅲ「女性研究者の採用および上位職への積極的な登用」において、「①女性教授増加を促進する『加速アクションプラン』の実施」を掲げています。

「加速アクションプラン」は、本学に在籍する准教授クラスの女性教員 25 名を教授職へ昇任させるもので、これにより、まずは教授の女性比率 10%達成を目指しました。また、昇任に伴って生じる人事ポイント差分を大学が 10 年間保証することとし（この内、一部を補助金で負担）、これによって部局における柔軟な人事計画の策定や将来目標の設定へと繋がる制度を構築することとしました。

今年度実施した「加速アクションプラン」には、学内から 34 件の応募があり、この内、自然科学系 17 名、人文社会学系 8 名、計 25 名の昇任を決定しました。また、昇任人事が行われる 16 部局からは、女性研究者の採用、登用の計画や目標、施策の提案が提出されており、DEI 推進本部では今後これらの施策の実行や目標達成に向けた支援を検討していくとともに、部局間でのベストプラクティスの共有を進めていきます。

教授昇任を機に、意思決定の場に参画する女性を増やすことで学内の意識・文化の変革に向けた好循環サイクルを回し、本学が掲げた各数値目標の達成を目指していきます。

2023 年度「女性研究者招へい支援」

本支援は、女性研究者の上位職登用と積極的な採用の促進を目的に、優秀な女性研究者の可視化やネットワークの機会として、学外から女性研究者を招へいし実施されるセミナーや研究会、講演会等の実施にかかる経費等の一部を支援するものです。

- 期間 支援決定後～2024年3月31日（日）
- 申請対象者 北海道大学に所属する教授・准教授（特任教員含む）
- 支援件数 2件
- 支援内容 女性研究者の招へいに係る旅費、謝金、その他

文部科学省科学技術人材育成費補助金「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」

2023 年度 女性研究者招へい支援 募集要項

1. 趣旨

本学では、令和5年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」の採択を受け、女性研究者の上位職登用と積極的な採用の促進に取り組んでいます。

本支援では、優秀な女性研究者の可視化やネットワークの機会として、学外から女性研究者を招へいして実施されるセミナーや研究会、講演会等の開催に必要な経費の一部を支援します。

2. 支援内容

1件あたり20万円を上限に補助します。

支援対象となる経費は以下の通りです。

費目	内容
旅費	女性研究者の招へいに係る旅費 ※本学規定に基づき、原則往復交通費、日当、宿泊費を支給。 但し、当該年度内の移動・宿泊に係る旅費のみを対象とする。
謝金	女性研究者による講演、指導・助言等に対する謝金 ※本学規定に拠る。
その他 (諸経費)	・広報のためのポスター・チラシ、配布資料の印刷費 ・招へい者に対する一時保育室設置に伴う費用 ・セミナー等のオンライン配信に必要となるサービス利用料等 ※一時保育室、オンライン配信等の手配・準備は主催者が行うこと。

※海外からの招へいをご検討の場合には、予めご相談ください。

※支援額上限に合わせる必要はありません。経費を返納することがないように試算ください。

3. 支援要件

- － 女性研究者を講師として招へいし行われるセミナー等であること
- － ロールモデルとなる女性研究者の可視化に資する取組であること
- － 招へいの際し、セミナー等とは別に、申請者や開催するセミナー等の関係者、所属部局の執行部やDEIワーキンググループメンバー等と当該女性研究者とのDEIに関する意見交換等の機会を設けること。出席者やテーマ・内容については、所属部局のDEI推進に資する機会となるよう計画ください。（例：部局DEIワーキング

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/23807/>

研究力向上とリーダー育成

研究活動と女性リーダー活躍の両立のための補助人材支援

本支援は、大学の管理運営や社会貢献等、学内外の要職に就く北海道大学に所属する女性研究者に対して、研究活動と社会貢献活動を両立し、女性リーダーとして活躍できるよう、研究者の補助を行う人材の雇用経費を支援するものです。

- 期間 支援決定後～2024年3月31日（日）
- 対象者 北海道大学に所属する女性の教授・准教授（特任教員含む）
- 支援者数 4名
- 支援内容 補助人材雇用経費の支援

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」

2023年度

「研究活動と女性リーダー活躍の両立のための補助人材支援」募集要項

ダイバーシティ・インクルージョン推進本部

1. 概要

本支援は、大学の管理運営や社会貢献等、学内外の要職に就く女性研究者に対して、研究活動と社会貢献活動を両立し、女性リーダーとして活躍できるよう、研究者の補助を行う人材の雇用経費を支援します。

2. 支援対象期間

支援決定後～2024年3月31日

3. 支援対象者と支援金額

次に該当する研究者を支援対象者とし、補助人材雇用経費の支援を行います。

支援対象者	支援上限額	採択者数
◆女性リーダー活躍支援 ・本学の女性の教授・准教授（特任教員含む） ・特に、大学の管理運営や社会貢献等、学内外の要職 ^{*1} を務めることに伴う業務等によって研究時間を十分に確保することが困難な研究者	60万円	6名程度（予定）

^{*1} 「要職」…本学もしくは部局執行部における役職（副学長、副理事、総長補佐、研究院長、副研究院長、評議員、代議員等）、日本学術会議や学会における役職（理事長・理事、委員会・分科会委員、連携会員、委員長・副委員長等）、国・地方自治体等の審議会委員等における職とし、年単位の長期にわたり務める必要があり継続的に業務負担が生じる職、他機関等からの依頼や選出によって任命される職を指す。

補助人材の雇用について

補助人材の雇用種別

雇用できる補助人材は**技術補助員**とします。

※他の資金（外部資金、大学運営費等）との合算による雇用は原則不可となります。

補助人材が行うことができる業務

- ・被支援者本人の研究に関わる業務の補助
- ・社会貢献活動等により被支援者の業務専念時間が短縮した場合、被支援者の業務や研究の補助に加え、その影響を受ける周囲の教員^{*}の業務補助。ただし、被支援者の業務専念時間の短縮と周囲の教員に与える影響の関係を十分に説明できる場合に限る。

^{*}「周囲の教員」…被支援者が所属する研究室、講座、分野の教員

国立大学法人北海道大学桂田芳枝賞

日時 2023年10月5日(木) 11:00

場所 北海道大学事務局棟役員会室

10月5日(木)、本学事務局棟役員会室において「国立大学法人北海道大学桂田芳枝賞」授与式が行われました。

本賞は、本学において学術上優れた研究を展開するとともに、次世代の管理職等として活躍することが期待される本学所属の女性教員を顕彰することで、当該女性教員自身及びこれに続く多くの女性教員の励みとし、上位職並びに管理職への女性登用の促進に繋げることを目的としたものであり、2023年3月に新たに創設され今年度が初めての授与式となりました。

● 第1回受賞者（五十音順）

- 小川 美香子（大学院薬学研究院・教授）
- 黒岩 麻里（大学院理学研究院・教授）
- 滝沢 侑子（低温科学研究所・准教授）
- 樋田 京子（大学院歯学研究院・教授）



特別展示開催中

北海道大学文庫館（北海道大学の歴史に関する資料を収集・公開する機関）では、真の命名曲となった桂田芳枝の足跡を辿る特別展示「国立大学法人北海道大学桂田芳枝賞の由来」を2023年10月5日（木）から開催しています。「女性研究」という視点から桂田芳枝の功績を振り返ります。本展示は、桂田芳枝の功績を振り返るだけでなく、桂田芳枝の功績を継承し、次世代の管理職等として活躍することを期待する者に対し顕彰を行います。顕彰者は、顕彰局長からの推薦書をもとに選定される予定です。後援会の構成は以下の通りです。

- Ⅰ. 理学部入学への経典曲師
- Ⅱ. 理学部入学の歩み方
- Ⅲ. 研究者の心
- Ⅳ. 日本数学会で女性初の理事
- Ⅴ. 数学者の「居」に込められた「心」
- Ⅵ. 研究も、教育も、大学運営も
- Ⅶ. 北大で女性初の教授
- Ⅷ. 空間と時間？
- Ⅷ. フロントランナーからのメッセージ

特別展示では、桂田芳枝の功績を振り返るだけでなく、桂田芳枝の功績を継承し、次世代の管理職等として活躍することを期待する者に対し顕彰を行います。顕彰者は、顕彰局長からの推薦書をもとに選定される予定です。後援会の構成は以下の通りです。

会場：2023年10月5日（木）～2024年8月5日（月）
時間：平日（月～金曜日）の開催日時
10時～16時30分（16時30分以降は閉館）
会場：大学事務局1階 図書展示室（札幌市北区北条町1丁目）
問い合わせ先：2023年10月5日～2024年8月5日
大学文庫館（北海道大学）に問い合わせてください。

桂田芳枝とは？

桂田芳枝（1911-1980）は、女性が大学に入学することの難しかった戦前、数学研究を志し、1939年に小樽高等女学校を卒業後、東京大学で1939年～1943年「東京女子大学数学部」に在籍し、1943年～1946年を経て、1946年4月に北海道大学（北海道大学の前身）の理学部数学科に入学した。

1942年理学部数学科専攻科助手として働き、本学で二度目の理学部数学科の主任教授の職に就き、研究の道に進みました。1950年7月には「高次空間の非可換環上の線形変換」の論文で理学博士の学位を取得し、同年11月教授に昇任し、1956年10月に退任し、理学部の理学部長を主筆しました。北海道大学では女性初の教授であり、当時大学では女性初の課長職の教授に就任した。この間、自治医科大学の客員教授、東北大学理学部教授のハイフン・アップ・アップ（1964-1966）、1964-1971年の理学部数学科の主任教授の職に就き、理学部の理学部長を主筆しました。1976年3月には大学副学長補佐に就任し、1977年6月からは北海道大学副学長も兼ねて大学運営にも貢献しました。1978年に退任し、同年10月に北海道大学名誉教授の称号が授けられました。北海道大学においては、日本の女性研究者のハイフン・アップ・アップです。

桂田芳枝賞について

「桂田芳枝賞」の命名は、北海道大学の桂田芳枝先生は、女性が研究者として活躍（持つこと）が社会で活躍することが困難な時代に、自ら道を切り拓き、功績を挙げた。本賞は、桂田先生の功績を継承し、次世代の管理職等として活躍することを期待する者に対し顕彰を行います。顕彰者は、顕彰局長からの推薦書をもとに選定される予定です。後援会の構成は以下の通りです。

受賞者懇談会を行いました

桂田芳枝賞授与式には、顕彰者として、賞金を授けられ、本学で懇談会を開催しました。本学は女性の上位職者数が少ないという現状を踏まえ、女性研究者の増加と活躍の場について、活発な意見交換が行われました。

賞金は、賞金委員会（賞金委員会の委員長としての主任教授の経験から、アメリリス大学から推薦される賞金委員は、写真に写っている人物のほとんどが男性となっており、女性も含まれていない）が推薦された。賞金は、賞金委員会の委員長としての主任教授の経験から、アメリリス大学から推薦される賞金委員は、写真に写っている人物のほとんどが男性となっており、女性も含まれていない）が推薦された。賞金は、賞金委員会の委員長としての主任教授の経験から、アメリリス大学から推薦される賞金委員は、写真に写っている人物のほとんどが男性となっており、女性も含まれていない）が推薦された。

ニュースレター号外で「桂田芳枝賞」を特集しました。

「Woman's Career Canvas ～女子学生が描くキャリアの未来図～」 開催

■ 日時 2024年2月13日(火) 11:00～13:30

■ 場所 北海道大学オープンイノベーションハブエンレイソウ メインラウンジ

2月13日(火)、ダイバーシティ・インクルージョン推進本部と、大学院教育推進機構、共同プロジェクト拠点共創教育センターとの共催で女子学生を対象としたキャリアパスイベント「Woman's Career Canvas ～女子学生が描くキャリアの未来図～」を北大エンレイソウで開催しました。

本イベントは文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」の一環として、女子学生・大学院生の博士進学支援を目的に実施したもので、約20名の女子学生・大学院生が参加しました。

まず、博士課程の学生の池端麻里さん、白井那奈さんによる研究発表や博士課程進学までのお話から始まり、本学大学院理学研究科ご出身で現在は株式会社 Savon de Siesta 取締役の附柴彩子さんによる理学修士から起業までのお話、大学院教育推進機構の繁富(栗林)香織先生による研究環境づくりやワークライフバランスのための北大の取り組みについてのお話をお聞きしました。その後、上記の皆さんに、ダイバーシティ・インクルージョン推進本部の長堀紀子先生が加わり、「女子大学院生の未来図」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

参加された皆さんは、ランチを食べながらとてもリラックスした雰囲気の中、先輩方ご自身のキャリアパスについてのお話や学生の皆さんに向けたアドバイスに熱心に耳を傾けていました。

イベントには大学院工学研究院の猿渡亜由未先生をはじめ大学や企業で研究者として活躍されている皆さんにもロールモデルとしてご参加いただき、イベントの最後には、登壇者、ロールモデルと参加者が自由に交流できる時間を設け、皆さん楽しく有意義な時間を過ごされ、ネットワークの広がりにつながる機会となりました。



意識啓発

「古河講堂パープル・ライトアップ&ハラスメント講演会」開催

■ 日時・場所 2023年11月22日(水)

パープル・ライトアップ 17:00～20:00
北海道大学古河講堂

ハラスメント講演会 18:00～19:30
北海道大学学術交流会館 講堂

11月22日(水)に北海道大学古河講堂のパープル・ライトアップを行いました。

これは内閣府の実施している「女性に対する暴力をなくす運動」に北海道大学が賛同し、その運動のシンボルカラーの紫色でライトアップを行い、女性の人権尊重ならびにハラスメントや差別的言動に対する学内構成員の意識向上を図りました。

今年度は、北海道大学ハラスメント相談室との共催で「ハラスメント講演会」を同日に行いました。

「大学におけるセクシュアル・ハラスメントの現状と対策」と題し、弁護士の須田布美子氏と北海道大学ハラスメント相談室・相談員の佐藤直弘氏に、それぞれお話しいただきました。

学内者だけでなく、学外からの参加もあり、大学内で起こるハラスメントの実情を知り、防止に向けた方策や対応について考えていただく機会となりました。



北海道大学は
内閣府「女性に対する暴力をなくす運動」
に賛同します

11/22 Wed.
17:00～20:00

(主催・共催先)
北海道大学
ダイバーシティ・
インクルージョン推進本部
Email: office@hokudai.ac.jp

**古河講堂
パープル
ライトアップ**

同日開催
18:00～19:30
北海道大学学術交流会館 講堂

150 北海道大学創設150周年記念事業
2023.11.22(水) 18:00～19:30 学術交流会館 講堂

相談先
情報
QR

対象: 高等教育機関に在籍する学生
および教職員、関心のある方

**ハラスメント
講演会**
申込不要

講師: 弁護士 須田 布美子 氏
相談員 佐藤 直弘 氏
講演: 大学におけるセクシュアル・
ハラスメントの現状と対策

自分以外の責任と合意ことを判断する
「誰かに行きなど行動の報告を強要する
携帯の履歴やメールなどチェックしたり、
自分以外の連絡先を削除する
誰かを陥れよう
暴言や脅す言葉を使う

物を壊したり、隠し置かれたりして脅される
物事を相談をなしに勝手に決められる
おごられる、高価なプレゼントを要求される
電話やメールにすぐ対応しないと怒られる
「無理、無理、行かないで」と言われる
キスや性行為を無理に要求される

環境整備

“だれでもトイレ” トイレサイン設置

これまで学内で「多目的トイレ」や「身障者トイレ」等の名称で使用されてきた広い個室のトイレを、誰もが利用しやすい“だれでもトイレ”とし、新たなトイレサインの設置を進めています。

現在までに“だれでもトイレ”サインの設置が行われたところは以下となります。

- 文学部棟
- 情報科学研究棟（1.2階、M棟）
- 高等教育推進機構（1.2階）
- 情報教育館
- D-RED棟
- 学生交流ステーション
- クラーク会館
- 体育館
- 福利厚生会館（北部食堂）
- 中央キャンパス総合研究棟1号館



各部門の取組



環境整備推進部門

「DEI パブリックビューイング」開催

- 日時 2024年1月18日(木) 12:00～14:00
 2月9日(金) 12:00～14:00
- 場所 北海道大学中央キャンパス総合研究棟1号館

① 1/18 (木) 開催

「教えてください、能條さん！～Z世代とジェンダーのこと、政治のこと」

講師：能條 桃子 さん (NO YOUTH NO JAPAN)

若年層を対象に国内や北海道のジェンダー課題やジェンダーギャップについてお話いただき、Z世代の政治参画がジェンダー平等にどうつながるか考えるきっかけとします。

② 2/9 (金) 開催

「誰もあきらめない職場を作るには～LGBTと職場環境を考える」

講師：福嶋 剛 さん

企業側と働く当事者それぞれが抱える悩みを踏まえ、具体的な対応事例を取り上げ、参加企業がセミナー後に取り組むイメージができるような内容となっています。



女性研究者育成支援部門

花王財団 Crescent award

「花王 Crescent award」は、女性研究者およびそのパートナーのワークライフバランスに配慮し、研究継続できるロールモデルを増やすと共に、日本の科学技術研究の振興・発展向上への寄与、男女共同参画社会の形成を促進することを目的に、「任期付き雇用かつ『表面の科学』の化学・物理学分野における優秀な女性研究者」を対象とした公益財団法人花王芸術・科学財団による助成プログラムです。財団が指定する大学・研究機関から推薦された女性研究者の中から財団の審査を経て採択者が決定されるもので、受賞者には研究費等として最大 100 万円が助成されます。

本学は今年度の指定大学・研究機関となっており、学内で選考した 1 名の候補者を花王芸術・科学財団へ推薦し、下記のとおり受賞が決定しました。

研究テーマ	マイクロ流体技術を用いたミトコンドリア標的型ナノ医薬設計の創製
氏名	日比野 光恵
所属	大学院工学研究院 マイクロシステム化学研究室

アカデミックファンタジスタ

日時 2024年3月6日(水) 14:30-16:00

場所 札幌日本大学高等学校

アカデミックファンタジスタは、北海道大学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生などに伝える事業で、内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」事業の一環として、北海道新聞社の協力のもと2012年から継続的に実施しています。今年度は、31名の研究者（男性20名、女性11名）が参加しており、DEI推進本部のサポートを受け参加した高等教育推進機構の平田末季准教授が、札幌日大高校において、「『多文化』化する北海道の今を考えるー共生に向けて私たちができること」との演題で、出張講義を行いました。同校に通う中学生・高校1、2年生計10名が参加しました。



未来を 進化させる31人。

北海道の高校生と対話する
ACADEMIC FANTASISTA 2023

ACADEMIC FANTASISTAは、北海道大学の研究者が、知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生に伝える事業です。

本事業は、北海道大学と北海道新聞社が連携して実施しています。出張講義のお申し込みは、高校単位となります。講義は一部オンラインで実施する場合があります。詳細は下記へお問い合わせください。

北海道新聞社 企画部 〒146-8501 札幌市中央区南一条西4丁目1-1 (5F) 電話 011-231-1730 (土・日・祝日を除く) 企画制作 北海道新聞社 企画部

北海道大学
hokkaido-u.ac.jp

教育推進部門

「TEDxSapporo Youth 2023」協力

- 日時 2023年5月14日（日） 12:15～16:30
- 場所 北翔大学 北方圏学術情報センター／札幌円山キャンパス

5月14日（日）に開催された「TEDxSapporo Youth 2023 ～といかけ～」に、DEI推進本部の長堀紀子特任教授が登壇しました。幼少期から感じてきたジェンダー不平等感や DEI推進本部での活動、またバイオベンチャーの起業を通じて考える「不利な立場の人のニーズが後回しにされる構造」や「構造を可視化することで議論の俎上に載せる」ことについて、経験談を元に会場にいる Youth たちに問いかけました。



「来たれ、リーガル女子!~女性の弁護士・裁判官・検察官に会ってみよう!」後援

日時 2023年8月7日(月) 13:15~16:30
 場所 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)

北海道大学大学院法学研究科、北海道大学法科大学院、北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター主催のイベント「来たれ、リーガル女子!~女性の弁護士・裁判官・検察官に会ってみよう!」を後援しました。

女性の法律家の数は多くはないのですが、様々な分野で活躍する女性の弁護士・裁判官・検察官から直接、仕事の魅力や普段の生活について話を聞ける貴重な機会となったようです。

来たれ、リーガル女子!!
 女性の弁護士・裁判官・検察官に会ってみよう!

女性の法律家の数は、多くはありません。
 「来たれ、リーガル女子!」で、様々な分野で活躍する女性の弁護士・裁判官・検察官から直接、その仕事の魅力や普段の生活について話を聞いてみませんか?
 その仕事の魅力や普段の生活についても予定されていますので、少人数のグループセッションも予定されています。
 身近にお話していただけます、是非ご参加ください!

参加費 無料

2023.8/7 MON 13:15 ~ 16:30

場所 北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)
 対象 中学生・高校生・保護者・教員

主に女子中高生を対象に女性の法律家がお話しますが、男子中高生、その他10~20代で法律家に興味のある方もご参加いただけます。
 手話通訳をご希望の方→2023年7月18日までに事務局の問い合わせ先にご連絡ください。

プログラム

第1部 **パネルディスカッション** 定員 100名
 「女性法律家(弁護士・裁判官・検察官)の働き方」

第2部 **進路説明** 第3部 **説明会/Q&A**
 中学生・高校生向け **グループセッション** 定員 50名
 1グループ10名程度で、各分野で活躍する女性の法律家と多様な仕事内容、日々の生活、グループセッションなどについて聞いていただけます。
 申込締め切り: 2023.7/18(火)
 ※申込内容によっては、申込締切後に調整が必要な場合がございます。お早めにお申し込みください。

主催/北海道大学大学院法学研究科、北海道大学法科大学院
 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター
 後援/北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部、北海道、札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道新聞社、北海道弁護士会連合会、札幌弁護士会、旭川弁護士会、釧路弁護士会
 企画・運営/札幌弁護士会

みなさんは、
女性の 弁護士、裁判官、検察官に 会ったことはありますか?

私たちが普段どんな仕事をして、どのようなやりがいを感じているか、日々の生活のことも含めてお話をできればと思います。
 ぜひご参加ください!

内声の響き

voice-01: 今できることを頑張れば、やりがいが見えてくることわかった。
 voice-02: それぞれの仕事内容を聞くことができて面白かった。
 voice-03: 楽しいイメージがあったが、普通の身近な女性で親しみか持てた。
 voice-04: 少人数だったので、思ったよりリラックスして質問できた。

会場 MAP
 北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)
 JR札幌駅北口より徒歩 13分
 当日は公共交通機関でお越しください。

会場案内
 北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)
 JR札幌駅北口より徒歩 13分
 当日は公共交通機関でお越しください。

お問い合せ先/ 弁護士 白笠 倫子 [みなみ大進法律事務所]
 TEL: 011-281-3767

【個人情報の取扱いについて】ご参加いただいた個人情報は札幌弁護士会長のプライバシーポリシーに基づき厳重に管理し、ネット上での公開に利用しません。個人情報は、統計的に整理・分析し、その結果を個人で発表したりする行為は行わないことをお約束します。

「ダイバーシティ&インクルージョン図書展示」共催

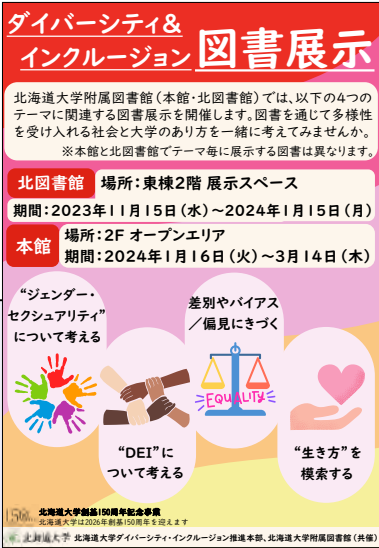
■ 期間・場所 2023年11月15日(水)～2024年1月15日(月)
北海道大学附属図書館北図書館 東棟2階 展示スペース

2024年1月16日(火)～3月14日(木)
北海道大学附属図書館本館 2階 オープンエリア

DEI推進本部は「ダイバーシティ&インクルージョン」についてもっと知ってほしいと思い、附属図書館と協力し関連図書の展示を行いました。

附属図書館本館・北図書館に特設コーナーを設置しました。

● 今年度の推薦図書一覧

<p>北図書館</p>	<p>サイモン vs 人類平等化計画 ポラリスが降り注ぐ夜 ジャクソンひとり 13歳からの地政学：カイソクとの地球儀航海 小さなことばたちの辞書 ふるさとして呼んでもいいですか カラフル 「社会」を扱う新たなモードー「障害の社会モデル」の使い方 男子劣化社会 女の子だから、男の子だからをなくす本 パパは女子高生だった：女の子だったパパが最高裁で逆転勝訴してつかんだ家族のカタチ</p>	
<p>本館</p>	<p>躍動するゲイ・ムーブメント 多様性の科学：画一的で凋落する組織、複数の視点で問題を解決する組織 軽度障害の社会学——「異化&統合」をめざして 髪をもたない女性たちの生活世界——その「生きづらさ」と「対処戦略」 タイミングの社会学——ディテールを書くエスノグラフィー 差別する人の研究——変容する部落差別と現代のレイシズム 差別はたいてい悪意のない人がする Invisible Women: Data Bias in a World Designed for Men エンタイトル 男性の無自覚な資格意識はいかにして女性を傷つけるか</p>	
<p>北図書館・本館共通</p>	<p>夏物語 実力も運のうち 能力主義は正義か？ 21世紀の資本 正欲 セックスする権利 私がフェミニズムを知らなかった頃</p>	
<p>DEI Library</p>	<p>ハートストッパー：1～4巻</p>	

「ブックトーク～話題の著者と話してみよう～」開催

Ⅰ 日時 2023年12月6日(水) 16:30～18:00

Ⅰ 場所 北海道大学高等教育推進機構 N2 教室

12月6日(水)に、北海道大学附属図書館の後援を受け、DEI推進本部の主催で、新企画『ブックトーク～話題の著者と話してみよう～』を開催しました。

「ブックトーク」は、一つのテーマに沿ってブックトーカーが色々な本を紹介するものですが、今回は趣向を変えて、テーマ図書の内容について著者と学生の皆さんにお話いただく機会としました。

第1回目は東京大学大学院総合文化研究科教授の瀬地山角先生をお呼びいたしました。

トークのテーマ図書は『炎上CMでよみとくジェンダー論』と設定し、司会はメディア・コミュニケーション研究院の渡部聡子助教にお願いいたしました。

発表者の学生には事前にテーマ図書を読み、プレゼン発表をしていただきました。その後、瀬地山先生からフィードバックを含む講演をいただきました。



12/6(水) 16:30 より
高等教育推進機構 N2 教室にて

テーマ図書
『炎上CMでよみとくジェンダー論』(光文社新書)
!北大附属図書館、DEI Libraryでも貸出中!

「ブックトーク」は、一つのテーマに沿ってブックトーカーが色々な本を紹介するものです。今回は趣向を変えて、テーマ図書の内容について著者と学生の皆さんにお話いただく機会としました。
今回のテーマ図書は『炎上CMでよみとくジェンダー論』です。
著者で、東京大学大学院総合文化研究科の瀬地山角先生をお呼びいたします。ブックトーカーの学生と共に、ジェンダー論について語り合ってください。

Book Talk
～話題の著者と話してみよう～

話題の著者 /
瀬地山 角 氏
東京大学大学院総合文化研究科・教授

主催
ダイバーシティ・インクルージョン推進本部
後援
北海道大学附属図書館

イベント情報はこちら

「体験型科学実験教室：『感じて』動くロボットを作るには」開催

- 日時 2023年12月9日(土) 13:00～16:00
- 場所 北海道大学大学院情報科学研究院
- 対象 中学生

12月9日(土)に大学院情報科学研究院において、公益財団法人KDDI財団とDEI推進本部の共催で中学生対象の体験型科学実験教室「『感じて』動くロボットを作るには」を実施しました。札幌市内の中学校に案内を出したところ、定員を超える申し込みがありました。抽選にて選ばれた12名が参加しました。

大学院情報科学研究院の小林孝一教授が講師となり、内容の説明の後に、あらかじめスタッフが大部分を作成しておいた車輪型移動ロボットの最終調整をしました。ロボット完成後、TAの大学院生によるサポートを受けながらロボットにプログラムを入力し、指示通りに紙に書かれた黒い線の上を外れないで動くよう調整を繰り返しました。

本イベントは毎年人気が高く、たくさんの申し込みをいただいております。当日は、多くの報道機関が取材に訪れるなど、世間の関心の高さを実感しました。



「体験型科学実験教室：北大工学部まるごと体験ツアー」共催

- 日時 2023年12月26日(火) 10:00～15:30
- 場所 北海道大学工学部
- 対象 中学生

12月26日(火)に大学院工学研究院と公益財団法人KDDI財団、DEI推進本部の共催で中学生対象の体験型科学実験教室「北大工学部まるごと体験ツアー」を実施しました。

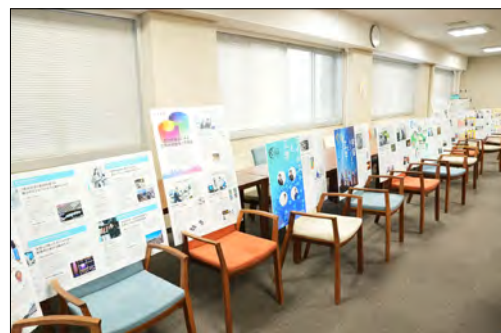
札幌市内の中学校に案内をしたところ、定員を超える申し込みがありました。抽選によって選ばれた40名と保護者が参加しました。

本イベントは、工学研究院環境循環システム部門の伊藤真由美教授を中心に企画運営いただきました。

当日は、伊藤教授より工学部の各学科及びコースの紹介やプログラムの流れなどの説明があった後、興味のあるチーム(バイオ班・地球班・環境班)に分かれ、工学研究院で行われている最新の研究分野の一部であるVR(ヴァーチャルリアリティ)や電子顕微鏡を見学しました。

その後、サポート役の工学院修士課程の学生4人、工学部の学生2人と一緒に工学部食堂で学食を体験し、総合博物館を見学しました。さらに、今年度竣工したフロンティア資源・エネルギー棟に移動してチームごとに研究室を訪問し、実験を体験しました。

最後は、中学生はサポート役の学生と学生生活や研究内容などについて、お菓子を食べながらリラックスした雰囲気の中、懇談しました。また別室では、伊藤教授、大友陽子助教から保護者に向けて、工学部の学科及びコースの紹介、工学院への進学状況、卒業、修了後の就職状況などについての説明が行われました。中学生、保護者とも活発な質疑があり、工学院、工学部への関心の高さが伺えました。



「中学生対象イベント：獣医学部を体験してみよう」共催

- 日時 2024年2月23日（金・祝） 13:00～15:30
- 場所 北海道大学獣医学部
- 対象 中学生

2月23日（金・祝）に、北海道大学獣医学部、DEI推進本部、北海道大学 One Health リサーチセンターの共催で、「北大獣医学部体験スクール2024：動物のお医者さん…だけじゃない！獣医学部を体験してみよう」（中学生対象）を開催し、札幌近郊にお住まいの中学生29名が参加しました。

イベントでは、実際に動物模型や実験装置を使って診察・観察・検査を体験しました。また、獣医師が動物の治療をするだけでなく、動物の身体の仕組みやなぜ病気になってしまうのかについて研究をしたり、お肉や牛乳の安全性を検査するなど、さまざまな分野で活躍していることを学びました。

参加者は、獣医師になるために獣医学部の学生が日ごろどのようなことを大学で学んでいるのかを知る良い機会となりました。

北大獣医学部 体験スクール2024/
動物のお医者さん…だけじゃない！
獣医学部を体験してみよう

動物の診療をするだけでなく、動物の身体の仕組みや、どうして病気になってしまうのかを研究したり、お肉や牛乳の安全性を検査したり、さまざまな分野で獣医師が活躍しています。獣医師が実際にどんな仕事をしているのか、獣医学部にならぬに獣医学部生がどんなことを学んでいるのか、その一瞥を捉えて体験できるイベントです！

2024/2/23（金・祝）13:00～15:30
会場 北海道大学 獣医学部（札幌市北18条西9丁目）
※詳細は各募集チラシをご覧ください。

プログラム
動物模型や実験装置を使って、診察・観察・検査を体験していただきます。

対象
札幌近郊にお住まいの中学生 定員 32名
※保護者のから同意が前提です。
※参加費は多くないが持ち物の準備費は1,600円です。
※年度終了後の場合は抽選になります。

申し込みは
北海道大学獣医学部のWebサイトから！
「北大獣医体験スクール」で検索

締め切り 2/8（木）



「体験型科学実験教室：光と色で見る化学の世界」開催

- 日時 2024年3月2日(土) 13:00～16:00
- 場所 北海道大学理学部
- 対象 高校生

KDDI財団 × 北海道大学
体験型科学実験教室

KDDI × HOKKAIDO
UNIVERSITY

光と色で見る化学の世界

ファッションから単一分子記録素子まで

実施日 2024.3.2(土) 13:00-16:00
対象: 高校生 (中学生も参加可)
定員: 10名 (希望者多数の場合は抽選、抽選の結果次第あり)
会場: 北海道大学理学部6号館 (詳細は募集要項にお知らせします)
参加無料・要事前申込

講師 鈴木孝紀 石垣侑祐
北海道大学大学院理学研究院化学部門

<参加申込>
締切 2024.1.31
高校生、希望、早中、抽選を
受けて、メールで申し込みを
お願いいたします。
(Log: Hokkaido Univ. 6号館
実験室201-6-100)

主催: 北海道大学ダイバーシティ・イノベーション推進本部
共催: (共) KDDI財団、北海道大学大学院理学研究院化学部門
後援: KDDI株式会社、北海道大学

3月2日(土)に大学院理学研究院化学部門と公益財団法人KDDI財団、DEI推進本部の共催で高校生対象の体験型科学実験教室「光と色で見る化学の世界」を実施しました。

当実験教室では初めての高校生を対象とした開催となりました。申し込みのあった9名の高校生が参加しました。

はじめに、KDDI財団の阿野茂浩理事長よりご挨拶を頂戴しました。続いて、大学院理学研究院化学部門の鈴木孝紀教授からプログラムの流れや実験内容について説明があり、その後、3つのグループに分かれて実験に取り組みました。

実験には反応が出るまで時間がかかるものがあり、その結果を待つ間にも学びがあるようにと、講義をうけながら、2種類の実験を交互に行うというプログラムを構成してくださいました。石垣侑祐准教授や大学院生、大学生6名のサポートもあり、スムーズに実験を進めることができました。

実際に実験器具を操作する際には緊張した面持ちを見せながらも、綺麗に色が変化するように、参加者も実験の面白さを感じていたようでした。



2023年度実施事業一覧

実施日	実施事業
5/14	「TEDxSapporo Youth 2023」協力
8/7	「来たれ、リーガル女子！～女性の弁護士・裁判官・検察官に会ってみよう！」後援
10/5	国立大学法人北海道大学桂田芳枝賞
11/15~3/14	「ダイバーシティ&インクルージョン図書展示」共催
11/16	2023年度「研究活動と女性リーダー活躍の両立のための補助人材支援」募集開始
11/22	「古河講堂パープル・ライトアップ&ハラスメント講演会」開催
12/6	「ブックトーク ～話題の著者と話してみよう～」開催
12/9	「体験型科学実験教室：『感じて』動くロボットを作るには」開催
12/23	「体験型科学実験教室：世界を支える暗号と数学」共催
12/26	「体験型科学実験教室：北大工学部まるごと体験ツアー」共催
1/18	「DEIパブリックビューイング①」開催
2/2	2023年度「女性研究者招へい支援」募集開始
2/9	「DEIパブリックビューイング②」開催
2/13	「Woman's Career Canvas ～女子学生が描くキャリアの未来図～」開催
2/20	「上位職スキルアップ研修：女性研究者のためのリーダーとして『話す力』」開催
2/23	「中学生対象イベント：獣医学部を体験してみよう」共催
3/2	「体験型科学実験教室：光と色で見る化学の世界」開催

COLOPHON

ANNUAL REPORT 2023

発行

2024年3月

発行者

北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部

お問い合わせ先

〒060-0812
札幌市北区北12条西7丁目
北海道大学 中央キャンパス総合研究棟1号館1階

TEL / 011-706-3625
Email / office@dei.hokudai.ac.jp

**HOKKAIDO UNIVERSITY
OFFICE OF DIVERSITY,
EQUITY,
AND INCLUSION**
www.dei.hokudai.ac.jp



北海道大学
ダイバーシティ・インクルージョン推進本部
Office of Diversity, Equity, and Inclusion